

『認知行動療法研究』特集号「遠隔認知行動療法」

『認知行動療法研究』では、新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の世界的な感染拡大を受けまして、特集号「遠隔認知行動療法」を企画しています。今回の特集号では会員の皆様からの論文投稿を広く募集しておりますので、ぜひ投稿のご検討をお願い申し上げます。

特集号編集者

- ・ 田中恒彦（新潟大学）
- ・ 竹林由武(福島県立医大)
- ・ 三田村 仰（立命館大学）

概要

新型コロナウイルス感染症（COVID-19）は、世界規模で感染拡大が持続し、大きな問題となっています。過去の感染症（SARS やエボラ出血熱）流行の経験からは、長期にわたるメンタルヘルス危機の発生が予測されています。これまで以上にメンタルヘルスサポートの重要性が高まっている一方で、ウイルス感染のリスク増大は従来型の対面形式での提供を困難にさせます。そうした窮状を打破するために遠隔心理学（telepsychology）の普及と発展が期待されています。遠隔心理学は、遠隔でのコミュニケーションを可能とする情報技術を介して提供される心理支援サービスを指し、電話、ビデオ通話、チャット、テキストメッセージ、インターネット/モバイル媒体などの通信機器を通じて提供されるカウンセリングや心理療法の総称です。

海外では、遠隔心理学の実践において認知行動療法が土台となされた介入が行われており、効果研究、事例報告など実践知のみならず、メタ解析や展望論文も散見されます。しかしながら、日本発信の報告は乏しいのが現状です。そこで、本特集号では遠隔コミュニケーション技術を活用し実施された認知行動療法の実践研究、および遠隔認知行動療法に関する展望論文や原著論文を募集します。

COVID-19 の世界的な流行状況を踏まえるとこれらの知見は、国内に限らず海外においても実践に役立つ貴重な資料となると考えられます。ぜひ、多くの皆様からのご投稿をお待ちしております。

速報性への対応

提出原稿の締め切りは 2020 年 9 月末を予定しています。本特集では、投稿を受け付けた論文からすぐに査読を開始します。査読を経て編集委員会で採択が決定しましたら、速報性の担保のため、順次早期公開を行う事を予定しています。

募集する論文の種類

認知行動療法の実践における遠隔コミュニケーション技術の活用に関する実践研究論文、展望論文、原著論文、資料論文、編集委員会への手紙

募集期間

2020 年 7 月 15 日より 9 月末日まで